

奈文研の平城宮跡での継続的な活動が小学校社会科の副読本に

2017年度に公示された小学校の新学習指導要領が、本年4月から全面実施となりました。それにとともに、奈良県内の小学校で広く活用されている社会科の副読本『奈良県のくらし』が改訂され、平城宮跡の保存・調査・活用に関する内容が大きく取り上げられることとなりました。長年にわたる奈文研の事業が、教育現場に還元される貴重な機会であるといえます。

『奈良県のくらし』は、県内の主に小学校3・4年生を対象として、その内容は、産業や自然、くらし、災害、伝統、文化財と多岐にわたります。新学習指導要領の4年生の学習項目には、県内の伝統・文化、先人の業績をもとに、地域の「モノ（文化財、自然）」や「コト（祭り、伝統文化、産業）」がいかにして継承されてきたのか、児童がその来歴を調べ、先人の苦労や努力について理解を深めることが目標として掲げられています。そして今回、その対象に選ばれたのが、長年の保存運動・調査・活用の蓄積を有する平城宮跡であり、その取り扱い、従来の2頁から12頁に増えました。

過去の保存運動に関する頁では、棚田嘉十郎らの活動に加え、その後の土地の国有化、史跡指定、東張り出し部の発見による国道24号線バイパスの迂回

等、様々な経緯を辿って平城宮跡が守られてきた歴史について、今回新たに紹介しています。こうした地道な調査の成果が史跡保存の進展に直結した事例を知ってもらうことは、文化財への理解につながるといえるでしょう。「なぜ発掘調査をするのか」、それにより「何がわかるのか」、「わかったことはどのように活かされているのか」。それらをふまえ、奈文研の継続的な発掘調査や研究、復原建物や展示施設での解説ボランティアの活動等、現在の平城宮跡での取り組みについてわかりやすく触れています。平城宮跡が多様な機関によって調査・研究・維持・管理・運営され、また解説ボランティアのような個々人の努力によって守られていること、その土台には地域の理解や想いがあることを知ってもらうのが狙いです。地元を過去・現在・未来の視点で知ってもらい、奈良県の子どもたちに、次の時代へ平城宮跡を伝えていく役割を担ってもらいたいのは勿論のこと、身近な市町村にある史跡や文化財にも興味や関心をもち、地域の一員としてそれらを引き継ぐことを自覚する助けとなれば幸いです。

今回の改訂によって、学校団体による平城宮跡のさらなる利用が期待されます。文化遺産に恵まれた奈良県の児童が学ぶ教材として、また、文化財や史跡の未来の担い手を育てる教材として、平城宮跡が今後より一層活用されることを願ってやみません。

(企画調整部 廣瀬 智子)



改訂版『奈良県のくらし』



奈文研の活動を紹介した掲載内容